

あんしん科



歯科治療はいくつになっても怖い？

# あんしん科では 様々な理由で歯科治療が難しい患者様の 診療を行います

- 発達障害
- 脳性麻痺
- 知的能力障害
- 歯科治療恐怖症
- 異常絞扼反射
- etc.

# 治療が難しい患者様への対応法は 大きく分けて二つあります

## ①行動変容法



特性に合わせた行動理論で対応

## ②薬物行動調整法



薬物を用いた意識/無意識下で処置

# 行動療法（行動変容法）

行動理論を応用して望ましい行動ができるように変えていくことを行動変容といい、これを治療に用いたものを指す。

## 1. 不安軽減法（情動反応）

リラクゼーション法  
レスポナント条件づけ  
系統的脱感作法  
エクスポージャー法  
Tell-Show-Do(TSD)法  
カウント法  
フラッディング法  
モデリング法

## 2. 行動形成法（自発行動）

オペラント条件付け  
トークンエコノミー法  
タイムアウト法  
ボイスコントロール  
シェイピング法

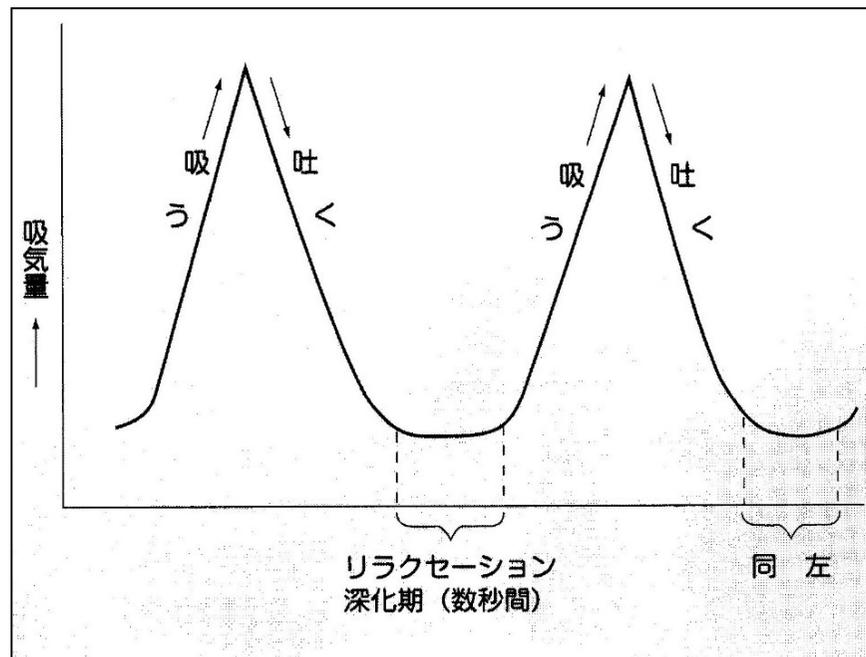
# リラクゼーション法

定義

力を抜き、リラックスすることで、不安を抑制する効果が高い方法。

特徴

通常は指示に従って手足の力を入れたり抜いたり、**深呼吸して、リラックスする方法**が取られるが、診療台のうえでリラックスさせるために天井テレビを見せたり、介助磨きを行う方法もある。



# モデリング

定義

観察学習、模倣学習ともいわれ、モデルの行動を観察することによって観察者の行動に変化が生じる現象。

臨床

リラックスして歯科治療を受け入れ、誉めてもらっているのが適切なモデルである。



# 藥物行動調整法

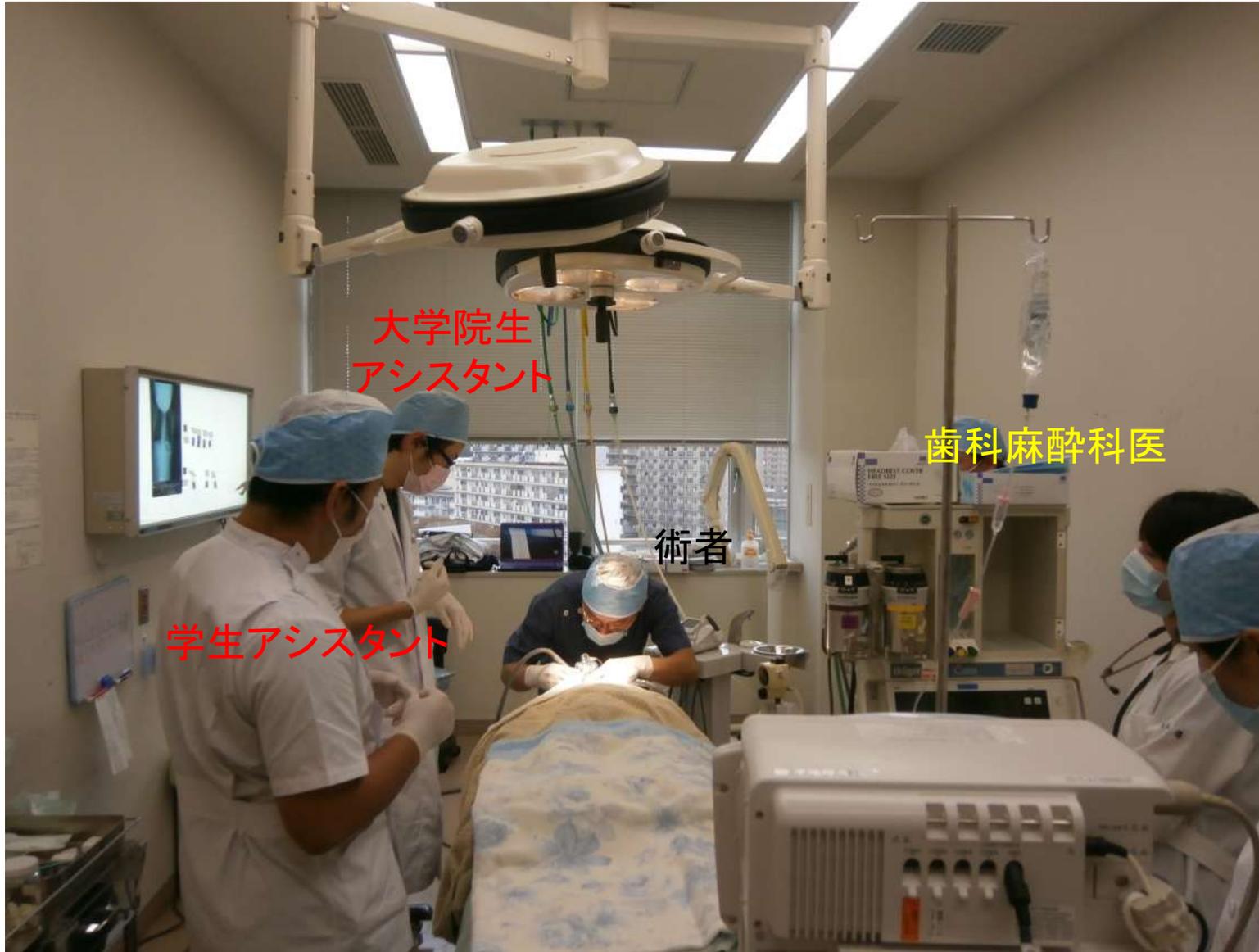


- 笑氣吸入鎮靜法
- 靜脈內鎮靜法
- 全身麻醉法

# 笑気吸入鎮静法（意識下）



# 静脈内鎮静法（意識下/無意識下）



# 全身麻酔法（無意識下）



緊急時など状況によっては身体抑制を行うこともあります

- 抑制法下の対応法(体動コントロール法)



# あんしん科での研修

## 一般目標

【1ヶ月コース・3ヶ月コース共通】

障害者・有病者の身体的および心理的な特徴と歯科診療上の留意点を理解する。また、患者の病態と臨床経過を把握し、医療面接から得られた情報をもとに、全身管理を主軸とした歯科治療計画のための知識・態度・技術を修得することができる。指導歯科医・上級歯科医の指導の下、治療を行う（患者配当型）。

## 行動目標

- ①患者の全身状態の評価と、必要な対応を行うことができる。
- ②患者の全身状態を把握したうえで、最適な治療計画を構築することができる。

# 【3ヶ月コース】

## 一般目標

1ヶ月コースの目標に加え、必要な治療計画を立て、その治療を実行することができる。また、専門的な行動調整法である静脈内鎮静法、全身麻酔法による歯科治療を行うことができる。周術期管理までを含めた患者管理を行うことができる。（患者配当型）

## 行動目標

- ①患者の全身状態の評価と、必要な行動調整法を選択することができる。
- ②適切な行動療法、身体抑制法、吸入鎮静法を行うことができる。
- ③静脈内鎮静法による歯科治療を行うことができる。
- ④全身麻酔法による歯科治療を行うことができる。



発達障害など歯科診療の難しいケースは近年増加傾向

あんしん科ではその様々なケースにおいて

適切な対応ができる歯科医師を目指して欲しいと願っています